

親子で学ぶ、命を守る防災体験！ 「稲むらの火の館」現地体験ツアーを開催

一般社団法人日本損害保険協会近畿支部和歌山損保会（会長：大西 真紀・損害保険ジャパン株式会社和歌山支店長）は、10 月 18 日（日）、和歌山県および広川町の後援のもと、「稲むらの火の館」（和歌山県有田郡広川町）において、小学生とその保護者を対象とした「親子で学ぶ、命を守る防災体験！『稲むらの火の館』現地体験ツアー」を開催しました。

本ツアーは、南海トラフ巨大地震による甚大な被害が想定される和歌山県において、次世代を担う子どもたちとその保護者に、地震・津波への備えの重要性を学んでいただくことを目的に企画したもので、当日は親子 7 組 15 名が参加しました。

開会にあたり、当会の大西会長から南海トラフ巨大地震への備えとして、日頃からの準備や正しい知識を身につけることの重要性を説明するとともに、「自分の命は自分で守る」という意識を持つことの大切さを伝えました。また、地震が起きた際に、どのように行動するかを親子で考え、ツアーで学んだことを家庭でも共有してほしいと呼びかけました。

館内学習では、3D 津波映像シアターでの「その日 命を守るために」「ドラマ 稲むらの火」の映像鑑賞や、「稲むらの火の館」の雑賀 聡館長による講演を通じて、安政南海地震の際に多くの村人の命を救った濱口梧陵の功績や、災害から身を守るための行動について学びました。

また、フィールドワークでは、専門ガイドの案内のもと、広村堤防や耐久社、濱口梧陵銅像などを見学し、先人たちが残した防災の知恵や、災害からの復興に向けた取組について理解を深めました。

終わりの会では、参加した親子に非常食と防災クリアファイルを配布しました。また、当会近畿支部の吉澤事務局長から、子どもたちが楽しみながら地域の防災について学ぶ「ぼうさい探検隊（※）」の取り組みを紹介し、今後も親子で防災について考え、日頃の備えに生かしていただくよう呼びかけました。

本ツアーは、当会が和歌山県で開催する防災イベントとしては初の取組であり、親子で地域の防災の歴史に触れ、日頃からの備えや命を守る行動について考える機会となりました。

当支部では、今後も自治体等との連携を図りながら、地域住民の防災・減災意識の向上と、災害に強い地域社会づくりに貢献してまいります。

※ぼうさい探検隊とは

子どもたちが楽しみながらまちにある防災・防犯・交通安全に関する施設や設備などを見て回り、身の回りの安全・安心を考えながらマップにまとめ発表する、実践的な安全教育プログラム。2004 年度から「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」を開催し、今回で 23 回目。自治体や行政等への提言により実際に危険箇所が改善された事例もあり、地域安全力向上の一助になっている。

【開催概要】

日 時：2026 年 10 月 18 日（日）13 時 40 分～16 時 00 分

会 場：稲むらの火の館（和歌山県有田郡広川町広 671）

主 催：一般社団法人日本損害保険協会近畿支部和歌山損保会

後 援：和歌山県、広川町

参加者：小学生とその保護者 7 組 15 名

内 容：館内学習（映像鑑賞・講演）、フィールドワーク



開会挨拶（大西損保会長）



館内学習の様子



終わりの会の様子



フィールドワークの様子